

会 報 《第 478号》



次代を築くヒューマン・ネットワーク
一般社団法人兵庫県建築会

令和8年1月1日

«目 次»

I 新年のご挨拶	「 未来を切り拓く 課題への挑戦 」	
	会 長 山 本 康一郎	· · · · 2頁
II 新春メッセージ	「 次代を拓く 兵庫の力 」	
	兵庫県知事 斎 藤 元 彦	· · · · 3頁
III 新年のご挨拶	役 員 一 同	· · · · 4頁
IV 視察会（第534回月例会）	「GLION ARENA KOBE （G ライオンアリーナ神戸）」	· · · · 5~6頁
V 事業推進委員会		· · · · 7~8頁
VI、VII お知らせ・広報コーナー	行事予定、編集後記、住宅再建共済制度	· · 9~10頁

謹 賀 新 年



《新年のご挨拶》



「未来を切り拓く 課題への挑戦」

一般社団法人 兵庫県建築会

会長 山本 康一郎

新年明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。本年が、皆様にとりまして希望に満ちた素晴らしい一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。

さて、昨年は、梅雨明け早々記録的な猛暑が続き、平均気温は観測史上最高を記録し、県内でも40度超えの地域が出るなど、地球規模での気候変動対策が喫緊の課題であることを改めて痛感させられました。温室効果ガス削減に向けた取組みは、もはや待ったなしの状況です。

目を2026年（令和8年）の社会情勢に転じますと、緩やかな経済成長の継続と政治の安定を望むところであります。しかし、建築に携わる我々には、未来を切り拓くために乗り越えるべき大変厳しい課題が目前に迫っておりります。特に重要な課題として、以下の3点が挙げられます。

第1は、サステナビリティ法改正への的確な対応です。

- ・省エネ基準の強化：2026年4月より、非住宅建築物（延床面積300m²以上）に対する一次エネルギー消費量基準（BEI）が0.75～0.85へと厳格化されます。
- ・環境性能の重視：高度な断熱材や高効率設備の導入が必須となり、設計・施工における一層の技術的向上が求められます。

第2は、人材確保と「働き方改革」の徹底です。

- ・技能労働者不足：2035年には約129万人の不足が予測され、若手の採用・育成は急務です。
- ・魅力ある職場づくり：週休2日制の導入、残業削減、有給休暇取得の推進などを徹底し、働きやすい環境を整備する必要があります。
- ・技術継承：ベテラン技術者のノウハウをデジタル化し、若手へと円滑に継承する仕組みづくりが不可欠です。

第3は、デジタル・イノベーションの推進です。

- ・施工管理DX：クラウド施工管理やAI活用、BIM/CIM導入による生産性の向上が必要です。
- ・少人数・高生産性体制：ITツールを駆使し、人手不足を補いつつ高い生産性を維持する体制づくりが鍵となります。

これらの課題に的確に対応し、建築界全体が社会から一層信頼される産業へと進化することが重要です。日々の弛まぬ努力と一年一年の着実な積み重ねこそが、我々が未来へ生き残る鍵となると確信しております。

そして、当会は来る令和9年3月に創立80周年（1947年3月15日設立）という輝かしい節目を迎えます。令和9年度には、多くの関係者並びに会員の皆様と共に記念事業（祝賀会など）を開催するべく、本年令和8年から企画準備を始める所存です。

結びに、本年も皆様からの益々のご支援とご協力を願い申し上げ、新年のご挨拶とします。



《新春メッセージ》

「次代を拓く 兵庫の力」

兵庫県知事

齋藤元彦

新年あけましておめでとうございます。

昨年は、阪神・淡路大震災から30年、終戦から80年という大きな節目を迎えた過去を振り返り、未来への責任を改めて心に刻む、意義深い一年となりました。

令和8年は午年。^{うま}力強く駆け抜ける「行動力」と「挑戦」を象徴する年であり、未来に向けた兵庫づくりを力強く進めてまいります。

第1は、若者・Z世代へのさらなる支援です。県立大学授業料無償化等の教育費負担の軽減、県立学校の教育環境の充実、海外留学支援、不登校やケアリーバー等の課題を抱える若者への支援など、一人一人が自らの夢や目標に向かって、力を発揮できる環境を整えます。

第2は、活力あふれる兵庫の創出です。フィールドパビリオンなどの万博のレガシーを活かした交流人口の拡大や、スポーツ・芸術文化の振興、農林水産業や地場産業への支援など、地域の魅力を高め、活力ある兵庫を築いていきます。

第3は、安全安心な暮らしを支える基盤の強化です。南海トラフ地震などの大規模災害に備え、防災力を高めるとともに、上下水道の老朽化対策、特殊詐欺被害対策、ツキノワグマ対策などの日常の安全を守る取組を強化していきます。

未来を見据え、県民の皆様とともに新しい時代を切り拓いていく決意です。どうぞご理解とご協力をよろしくお願ひいたします。





迎春

旧年中は弊会の運営にあたりまして、会員並びに関係者の皆様には格別のご高配を賜り、ありがとうございました。
本年もより一層のご指導、ご鞭撻を頂きますようお願ひいたします。

令和8年元旦

=役員一覧=

名誉顧問 濑戸本 淳

会長 山本康一郎

副会長 岡 澄彦

西谷 一盛

出野上 聰

顧問 松浦 純

理事 前川真一郎

幹事 木下 勝功

根岸 芳之

富澤 幸生

瀬尾 武夫

柴田 和弘

北浪 孝一

池内 修

三木 健義

矢間 照人

谷口 正樹

正木 恵子

安田 宏

吉川 壽一

中川 政和

湖亀 一登

坂井 豊

谷口 賢行

宮崎 健一

長坂 浩

棚田 肇

足達 和則

仙田 健一

石田 邦夫

監事 山田 聖一

立花 充



IV 観察会（第534回月例会）

「 GLION ARENA KOBE （G ライオンアリーナ神戸）」

令和7年12月9日（火） 14：00～15：30

観察参加者 24名

令和7年度観察会の内容を報告します。



（施設の概要（TOTEI KOBE の HP から））

事業名：新湊突堤西地区（第2突堤）

所在地：神戸市中央区新港町2-1

名称：GLION ARENA KOBE

面積：約23,700m²（敷地）

約32,204m²（延床）

収容数：約10,000人

開業：2025年4月4日

所有者：神戸市（土地）

NTT都市開発株式会社（建物）

運営：(株)One Bright KOBE(以下「OBK」)

設計施工：(株)大林組

コンストラクションマネジメント：(株)山下PMC

（T O T E I : 第2突堤の愛称）



（沿革）

2021年、神戸市は第2突堤の再生事業を公募し、NTTドコモ、NTT都市開発、スマートバリューの3社コンソーシアムを優先交渉権者に選んだ。NTT都市開発は神戸市と50年の定期

借地権契約を締結、アリーナは同社が建設し所有する。NTT都市開発とOBKは基本計画を作成しこれをもとに設計・施工者を募り、2022年に大林組に決定した。

（ゲート）



（観察スタート）



（上写真は「緑の丘」の屋根の上）



(内部視察)



(エスカレーターでアリーナへ)

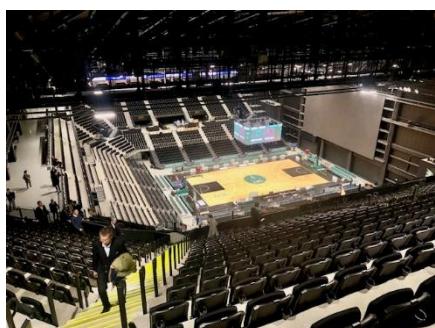


(世界水準の次世代アリーナ)

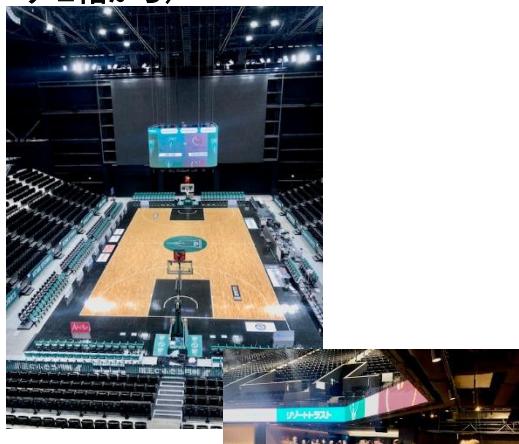
ボウル型のアリーナである。スタンドを敷地から決まっていた馬てい形平面として東西に横幅 24 m、高さ 13 m の大型ビジョンを設置した。

スタンドに合わせて屋根架構の高低を変え、空調が必要となる気積を抑えられるようにした。

(アリーナ 5 階から)



(アリーナ 2 階から)



(視察する参加者)



(アリーナ 1 階から)



(国内最高峰の常備設備)

バスケットボールは勿論、幅広いイベントを想定し、天井には全席から視認性の良い 360 度センターハイビジョンと世界的なスピーカーブランドである d & b 製の連結ラインアレイスピーカー 7 基をはじめ、全 50 基のスピーカーで大迫力のエンタメ空間を演出する。

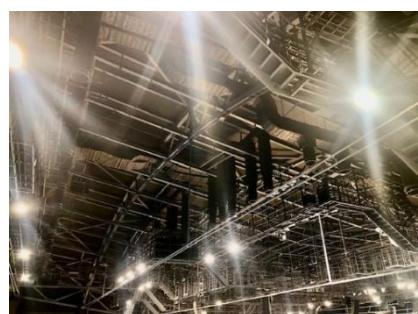
(大型ビジョンと 360 度センターハイビジョン)



(屋根架構)

屋根架構にはタイトアーチトラス構造を採用している。

- ・外力に対して屋根と支持架構の一体性を高める控え架構
- ・懸垂線のアーチを補強する屋根形状に即したトラス
- ・屋根荷重を軸方向力で伝達する懸垂線のアーチ



※文章は NIKEI ARCHITECTURE (2025. 12. 11) に掲載されていたものを基本にしている。

V 事業推進委員会（令和7年度後期）

演題「工業教育の現状と課題」 講師：県立尼崎工業高校 校長 上月 通男氏

令和7年12月9日（火） 17:00～19:00

参集者 20名 場所：神戸元町「梅の花」

（会長挨拶）



年末のお忙しい時に事業推進委員会に参加いただきありがとうございます。先程Gライオンアリーナを見学してきました。見学料を払うという初めての経験ではありましたが価値はあったかなと思っております。神戸に新しい施設が次々とでき、街が生まれ変わる様子を知ることできた有意義な視察会でした。また、11月には兵庫県設計監理協会様と合同の海外視察に行ってきました。ローマとシチリアを回って本当に楽しい旅行ができました。今日は尼崎工業の上月先生に工業高校の現状と課題ということでお話いただきます。担い手不足が一番頭の痛い課題かと思いますので、今後の参考にして頂けたら思いますのでよろしくお願ひします。

（講演）



本日は「工業教育の現状と課題」について話をさせてもらいます。「日本の教育」の変遷は、授業時間数の変化を見ると分かりやすいと思います。現在は完全週休二日ですが、昭和の終わりまで

たりは土曜日まで授業がありました。大きな流れとして「詰め込み」の教育から「ゆとり」の時代になり、その弊害から今は「脱ゆとり」の状況にあります。

「教育の現状」を表す言葉として「普通科志向」「多様化」「少子化」等がよく使われます。「個別最適な学び」についても教育界ではよく耳にするワードです。生徒が40人おれば40人それぞれ違う個に応じた最適な学びがあるという考え方で、これまで一斉指導をしてきた教師にとっては大変な状況です。また、色々な事情で学校に行きたくなかったら無理して行かなくてもいいという考え方もあります。小・中学校時代に不登校傾向であった子どもたちが、義務教育ではない高等学校に入学すると進級や卒業が難しくなりますが、家庭でのリモート学習で単位を認めるケースもあります。

本題の「工業高校の現状」です。多くの工業高校で定員割れが起こっています。人気がないというのではなく、小・中学校や普通科の先生に工業高校が認知されていないので、進路指導で工業高校の魅力を伝えてもらうことができていません。更に工業専門の先生も深刻な人手不足です。また、普通科と比べると設備に非常にお金がかかります。今年4月、斎藤知事に尼崎工業を表敬していただきましたが、それがきっかけで産業系の学校に予算が付くことになり、現在その執行に追われています。塾の経営者の話なのですが、人生百年の時代に15歳で進路を決めますか、進路を狭めるような選択をさせますかという話です。残念ながら工業高校にとってはとても辛い逆風の状況です。

最近の生徒の状況なのですが、我慢できない、我慢しない生徒が増えてきていると感じています。

多様性を重視した結果で、我慢しなくて救われた児童・生徒はいることは間違いない、大切なことではありますが、社会で逞しく生きていく企業人を育てるという意味では厳しい状況であると思います。

「尼崎工業高校の取組」について説明します。本校は、多くの県内の工業高校で定員割れをする中、去年、今年と定員を確保し、来年度もなんとか確保できる見通しです。どの中学校にも受験勉強が嫌いでも、ものづくりが好きな中学生はいます。その生徒の掘り起こしのために中学校にも出向いています。ものをつくることが楽しいと思える生徒であれば、工業高校での専門の勉強はなんとか我慢できます。このモチベーションは我慢することが苦手な今の生徒にとっては追い風となります。尼崎工業での「就職指導・キャリア教育」ですが、普通科に負けない丁寧な就職指導、キャリア教育を行っています。卒業後のミスマッチを防ぐために1年次から就職支援をしていることもあり、全国的な調査でも普通科から就職した生徒に比べると離職率は低くなっています。

今年の3年生は定員を1割程度割ってスタートしましたが、現時点ではほぼ全員の進路先が決まっている状況です。就職が難しい大手企業に内定をもらっている3年生もいます。12月に入って自分たちが卒業した中学校を訪問して、尼崎工業での取組を恩師の先生方に話す母校訪問も行っています。

最後に、今の若者は本当に我慢が苦手です。我慢しなくていいと言われて大きくなっているところもあります。失敗経験も少なく、親が失敗をさせていない状況もあるのではないかと感じます。取り返しのつく失敗をたくさん経験し、そこから学んだことが真の力になるのではないでしょうか。そして、嫌なことからも逃げずに我慢して努力することで道が開けることを学んでもらいたいと切に願っています。この経験が「生きる力」となり、その力を備えた人材こそが社会で求められている人材で

あると思います。尼崎工業では、このような「生きる力」を持った生徒を社会に送り出すべく、日々の教育活動に取り組んでいます。本日は貴重な機会をいただきありがとうございました。

(乾杯 (出野上副会長))



15歳で人生を決めるのも大変難しいことだと思います。先生のお話を聞いて、人生の選択に失敗させたくないという思いもまた非常に共感できました。貴重なお話ありがとうございました。

乾杯します。

(懇親会)



(中締め (西谷副会長))



本日は上月先生から生々しいお話を伺いました。工業高校の生徒さんは産業界にとって貴重な人材であると思います。今年もあと20日ほどで終わりますが、来る新年が素晴らしい年となるよう大阪締めでいきたいと思います。お手を拝借。

ありがとうございました。

VII お知らせ

◎行事予定

1 令和8年新春会員交流会

日時：令和8年1月8日（木）

17:00～19:00

場所：神戸三宮東急REIホテル

2 月例会

日時：令和8年2月6日（金）

12:00～14:00

場所：神戸三宮東急REIホテル

演題：「変わりつつある世界秩序と
日本の安全保障」

講師：藤岡金属(株)代表取締役社長
藤岡 ゆか 氏

3 月例会

日時：令和8年3月5日（木）

12:00～14:00

場所：神戸三宮東急REIホテル

演題：「丹波からの魅力発信」

講師：兵庫県丹波県民局長
糟谷 浩行 氏

4 理事会

日時：令和8年3月5日（木）

14:00～15:00

場所：神戸三宮東急REIホテル

議題：令和8年度事業計画 等

◎編集後記

あけまして、おめでとうございます。

2026年午年がはじまりました。国内外で多様化、複雑化する社会の問題が山積していますが、前向きに、新たな気持ちで、兵庫県建築会の事務に携わって参りたいと思いますので、ご協力の程よろしくお願いします。

事務局：足達和則 石井滝実子

電話：078 996 2851

FAX：078 996 2852

e-mail：archit-k@axel.ocn.ne.jp



安心をカタチに

兵庫県住宅再建共済制度 フェニックス共済



自然災害から守りたい「住まい」と「くらし」



今後、もしも！！

南海トラフ地震が発生したら

- ▶ 30年以内の発生確率 最大80%！
- ▶ 県内の被害想定 全半壊 21.5万棟！

活断層地震が発生したら

- ▶ 油断できない「山崎断層帯」「上町断層帯」など

大型台風が直撃したら

豪雨による災害が発生したら

自然災害で被災した
住まいの再建に備えて **兵庫県が実施する共助のしくみ！**

県内に住宅(戸建て・マンションなど)をお持ちの方に

住宅再建共済

年額**5,000円**で
再建、補修時等に
最大600万円給付!

※半壊(損害割合20%)以上



一部損壊特約

年額**500円**で
補修時等に
25万円給付!

※損害割合10%以上20%未満

県内の住宅(借家含む)にお住まいの方に

家財再建共済

単独加入 年額**1,500円**で
住宅とセット加入の場合 年額**1,000円**で
購入・修復時に **最大50万円**給付!

※床上浸水・半壊以上

※住宅の被害認定(損害割合)は、住宅の所在する市町が発行する「り災証明書」によります。

- 地震・津波・豪雨・台風・地すべり・竜巻など、あらゆる自然災害による被害が対象です。
- 住宅の築年数や規模、構造等と関係なく、定額負担で定額給付です。
- 地震保険や他の共済に加入していても加入でき、給付が受けられます。

お問い合わせ

公益財団法人 兵庫県住宅再建共済基金

コールセンター **078-362-9400**(平日9:00~17:00)
FAX:078-362-4082

E-mail jutakukyosaikikin@pref.hyogo.lg.jp
フェニックス共済 検索 *加入申込書はダウンロードできます*



「加入申込書付きパンフレット」は、県庁・
県民局・県民センター・市役所・町役場・
郵便局(簡易郵便局除く)にあります。

クレジットカードでのお支払いの方は、
インターネットからのご加入が便利です！